

農産物の放射能濃度測定結果【精密分析】(10月11日～21日)

測定日	品目		市町村	地区名	生産者名	核種 単位(Bq/kg)					規制値		分析機関	
						I-131	Cs-134	Cs-136	Cs-137	Cs合計	I-131	Cs合計		
1	10/11	リーフレタス	露地	つくば市	水堀	門脇	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
2	10/12	ミニ白菜	露地	つくば市	水堀	門脇	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
3	10/12	タケノコ白菜	露地	つくば市	水堀	門脇	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
4	10/17	アスパラ菜	露地	稲敷市	月井出里	野原	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
5	10/17	サニーレタス	露地	つくば市	大形	柏	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
6	10/17	キャベツ	露地	つくば市	大形	柏	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
7	10/17	ターサイ	露地	つくば市	大形	柏	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
8	10/17	タケノコ白菜	露地	つくば市	大形	柏	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
9	10/17	レタス	露地	つくば市	水堀	門脇	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
10	10/18	唐芋	露地	つくば市	荃崎	菊地	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
11	10/18	カブ	露地	つくば市	谷田部	鈴木	不検出	不検出	不検出	不検出	-	2000	500	つくば分析
12	10/9	玄米(姫ごのみ)	露地	つくば市	小野崎	荒井	非検出	非検出	非検出	非検出	-	2000	500	茨城大学
13	10/9	玄米(香り米)	露地	つくば市	柳橋	みずほ農場	非検出	非検出	非検出	非検出	-	2000	500	茨城大学
14	10/9	玄米(タロベエモチ)	露地	桜川市	大国玉	角田	非検出	非検出	非検出	非検出	-	2000	500	茨城大学
15	10/10	玄米(姫ごのみ)	露地	つくば市	北太田	関農産	非検出	非検出	非検出	非検出	-	2000	500	茨城大学
16	10/12	干しいたけ	露地	つくば市	面野井	高谷悦	非検出	196±22	非検出	184±24	380±46	2000	500	茨城大学
17	10/12	乾燥きくらげ	施設	つくば市	赤塚	深澤	非検出	非検出	非検出	非検出	-	2000	500	茨城大学
18	10/16	ナガイモ	露地	つくば市	面野井	高谷栄	非検出	非検出	非検出	非検出	-	2000	500	茨城大学
19	10/16	近江生姜	露地	つくば市	羽成	吉波	非検出	非検出	非検出	非検出	-	2000	500	茨城大学
20	10/16	干し芋がら	露地	つくば市	荃崎	菊地	非検出	87±8	不検出	107±10	194±18	2000	500	茨城大学
21	10/17	むかご	露地	つくば市	面野井	高谷栄	非検出	非検出	非検出	非検出	-	2000	500	茨城大学
22	10/17	栗	露地	つくば市	羽成	吉波	非検出	30±4	非検出	30±5	60±9	2000	500	茨城大学

※測定方法 茨城大学「高純度ゲルマニウムガンマ線スペクトロメーターを使用」 検出下限0Bq/kg
 ※測定方法 つくば分析センター「NaI(Tl)シンチレーション型ペクトロメータ機器分析法」 検出下限20Bq/kg

上記の品目の測定を行いました。

つくば市産の「干しいたけ」から380±46Bq/kg(最大で426Bq)のセシウムが検出されました。暫定規制値の85.2%です。
 ちなみに、このつくば市産の「干しいたけ」を1kgをこのまま食べた場合の影響を計算しますと、
最大で218×0.019(Cs134の換算係数)+208×0.013(Cs137の換算係数)=6.85μSVになります。
 原発事故とは関係ない普通の時、食品による内部被ばくを410μSV/年受けています。
 年間の被ばく量より**1.7%**増えることとなります。

「干し芋がら」からも最大で212Bq/kgのセシウムが検出されました。
 この「干し芋がら」を1kgをこのまま食べた場合の影響を計算しますと、
最大で95×0.019(Cs134の換算係数)+117×0.013(Cs137の換算係数)=3.33μSVになります。
 年間の被ばく量より**0.8%**増えることとなります。

ベラルーシ、イギリス、ドイツ、フランスによって刊行された「長期汚染地域の住民のための放射線防護の実用的手引き」によりますと、
濃縮された食品や乾燥食品の上限値は、すぐに摂取できるような水で戻した状態で適用されるようです。
 実際には「干しいたけ」も「干し芋がら」も水で戻すと放射能は1/5程度になると考えられます。

栗に関してはつくば市産から最大で69Bq/kgのセシウムが検出されました。
 この栗を1kg食べた場合の影響を計算しますと、
最大で34×0.019(Cs134の換算係数)+35×0.013(Cs137の換算係数)=1.1μSVになります。
 年間の被ばく量より**0.27%**増えることとなります。

測定責任者:株式会社みずほ 生産研究部長 高橋広樹